

2017年度 研究や診療における 遺伝情報に関する市民意識調査



1. 調査の目的・実施方法

◆ 調査の目的

研究や診療における遺伝情報に関する市民意識を調査することにより、今後どのような啓発活動が必要かを検討する基礎資料を収集する。

◆ 調査の方法

日本リサーチセンターのインターネットパネル登録者に対し、オンライン調査を実施。

◆ 調査対象

全国20～69歳の男女個人（日本リサーチセンターインターネット登録パネル） 3,000人

全国を5区分に分けた地域割付を設定（各地域の割当数は2015年国勢調査を基準に設定）

割付回収数	20代	30代	40代	50代	60代	計
男性:計	300s	300s	300s	300s	300s	1,500s
北海道・東北	33s	33s	33s	33s	33s	165s
関東	107s	107s	107s	107s	107s	535s
中部	55s	55s	55s	55s	55s	275s
近畿	47s	47s	47s	47s	47s	235s
中国・四国・九州	58s	58s	58s	58s	58s	290s
女性:計	300s	300s	300s	300s	300s	1,500s
北海道・東北	34s	34s	34s	34s	34s	170s
関東	103s	103s	103s	103s	103s	515s
中部	53s	53s	53s	53s	53s	265s
近畿	50s	50s	50s	50s	50s	250s
中国・四国・九州	60s	60s	60s	60s	60s	300s
計	600s	600s	600s	600s	600s	3,000s

◆ 調査期間

2018年1月12日（金）～16日（火）

1. 調査の目的・実施方法

◆ 調査結果の見方及び留意事項

男女別年齢10歳階級属性群（表側）と各設問（表頭）に関してカイ二乗検定（独立性の検定）を実施。性・年代階級別の結果が全体結果と比較して有意な差があった場合に、特徴的なセルを示した。

(%)

	全 体 (人数)	とても関心が ある	どちらかといえ ば関心がある	どちらかといえ ば関心がない	まったく関心が ない	どちらともいえ ない
全 体	3000	10.5	37.7	26.2	16.0	9.6
男性：計	1500	10.7	35.5	26.6	17.6	9.6
20-29歳	300	12.3	33.3	19.7	22.7	12.0
30-39歳	300	10.0	35.7	23.3	16.7	14.3
	300	16.0	35.0	23.0	18.0	9.0

検定結果	凡例
有意に高い（過誤確率5%以下）	50.0
有意に高い（過誤確率1%以下）	50.0
有意に低い（過誤確率5%以下）	50.0
有意に低い（過誤確率1%以下）	50.0

前回（2015年度）の全体結果と、今回（2017年度）の全体結果の時系列比較に関して、独立2標本の比率の差の検定を実施。前回の結果と比較して有意な差があったセルを示した。

(単位：人) (%)

	人数		割合	
	2015年度	2017年度	2015年度	2017年度
遺伝子	2,783	2,658	92.8	88.6
DNA	2,733	2,649	91.1	88.3
遺伝情報	1,344	1,389	44.8	46.3
ゲノム	1,474	1,609	49.1	53.6
	2,783	2,658	76.5	76.4

検定結果	凡例
有意に高い（過誤確率5%以下）	50.0
有意に高い（過誤確率1%以下）	50.0
有意に低い（過誤確率5%以下）	50.0
有意に低い（過誤確率1%以下）	50.0

◆ 前回（2015年度）調査について 調査実施：株式会社三菱総合研究所

－ 調査方法

株式会社三菱総合研究所が運営する「生活者市場予測システム」が保有する20歳から69歳までの生活者パネル（健常人）に対し、オンライン調査を実施。

－ 調査対象

生活者パネルより20～69歳の男女個人 3,000人

－ 調査期間

2016年3月16日（水）～22日（火）

2. 調査結果のまとめ

- ◆ 「遺伝子」「DNA」は知っている人が8割以上。一方「ファーマコゲノミクス」「パーソナルゲノム」は知っている人が1割未満。「この中に知っている言葉はない」との回答が男性20-30代、女性20代で1割以上で、若年層で用語の認知度が低い傾向がみられる。[Q1]
- ◆ 遺伝情報に関する研究や診療への関心は、『関心がある計』が48.2%、『関心がない計』が42.2%。30代以上の女性では『関心がある計』が5割を超えて高い傾向がある。[Q2]
- ◆ 遺伝情報として『知りたい計』が最も高いのは「アルツハイマー症等の予防や治療の難しい病気へのかかりやすさ」で67.5%。いずれの項目も男性に比べて女性で知りたい人が多い。いずれの項目でも50代の女性で『知りたい計』が全体と比較して高い傾向がある。[Q3]
- ◆ 自身の遺伝情報が取り扱われる場合に重要なこと（上位2項目を回答）では、「得られる遺伝情報の精度や信頼性」（46.6%）が最も高い。男女ともに20代で「特に重要なものはない」と考える人が3割を超えて多い。[Q4]
- ◆ 遺伝情報が研究や診療で用いられる場合、「通常の研究や診療の規制よりも厳しい規制の下で、取り扱われるべき」とする意見が45.6%を占めるが、「わからない」との回答が21.0%となっている。[Q5]
- ◆ 遺伝情報に関する研究や診療を行う際、研究への参加者や患者から同意を取得する場合、「研究目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合」に53.4%が明確な説明をしておく必要があるとしている。目的では「研究目的」、「診療目的」、「商業目的」の順に高く、提供先では「他の研究機関や医療機関」、「民間企業」、「海外の機関」の順に高い。いずれの場合においても、女性は男性と比べて明確な説明をしておく必要があると考える人が多い。[Q6]

3. 調査結果 Q1.用語認知

◆ Q1.あなたは、次のような言葉について知っていますか。当てはまるものをすべて選択してください。

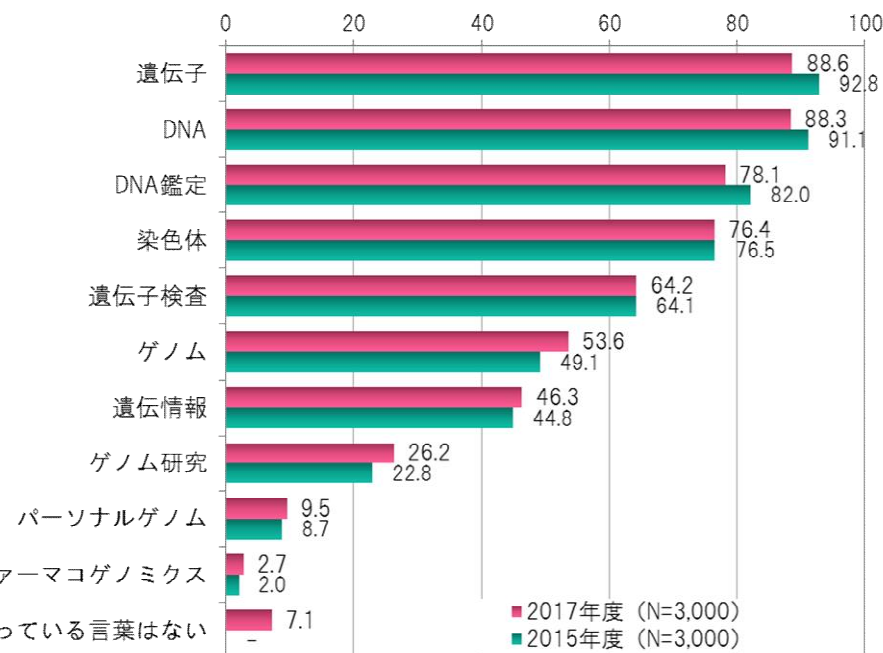
各言葉の認知度をみると、「遺伝子」が最も高く（88.6%）、「DNA」（88.3%）、「DNA鑑定」（78.1%）が続く。「染色体」（76.4%）も7割以上に認知されている。

他方、「ファーマコゲノミクス」（2.7%）、「パーソナルゲノム」（9.5%）は認知度が1割未満と低い。

前回と比較すると、「ゲノム」（+4.5ポイント）、「ゲノム研究」（+3.4ポイント）が増加。一方、「遺伝子」（-4.2ポイント）、「DNA鑑定」（-3.9ポイント）、「DNA」（-2.8ポイント）が減少。

	(単位:人)		(%)	
	人数		割合	
	2015年度	2017年度	2015年度	2017年度
遺伝子	2,783	2,658	92.8	88.6
DNA	2,733	2,649	91.1	88.3
遺伝情報	1,344	1,389	44.8	46.3
ゲノム	1,474	1,609	49.1	53.6
染色体	2,295	2,292	76.5	76.4
パーソナルゲノム	261	286	8.7	9.5
ゲノム研究	683	786	22.8	26.2
ファーマコゲノミクス	60	82	2.0	2.7
遺伝子検査	1,922	1,926	64.1	64.2
DNA鑑定	2,459	2,344	82.0	78.1
*この中に知っている言葉はない	-	213	-	7.1
N	3,000	3,000	100.0	100.0

*2015年度調査では、当該選択肢は設定されていない。



*この中に知っている言葉はない

■ 2017年度 (N=3,000)
■ 2015年度 (N=3,000)

3. 調査結果 Q1.用語認知

◆ Q1.あなたは、次のような言葉について知っていますか。当てはまるものをすべて選択してください。

全般に、男性50-60代は用語認知が高めであり、特に「遺伝子」「DNA」は9割以上が認知している。女性50-60代は、「遺伝子」「DNA」「染色体」「遺伝子検査」「DNA鑑定」についての認知度が全体と比べて高く、同年代男性を上回っている。一方で「ゲノム」「ファーマコゲノミクス」などについては、同年代男性より認知率が低い。

男性20-30代、女性20代では全般に認知度が低く、「この中に知っている言葉はない」が1割以上である。男性20-30代は、「遺伝子」「DNA」「染色体」「遺伝子検査」「DNA鑑定」の認知度が、全体と比べて低い。女性20代は「遺伝子」「DNA」「遺伝情報」「ゲノム」「パーソナルゲノム」「ゲノム研究」「遺伝子検査」「DNA鑑定」の認知度が全体と比べて低い。

		全 体 (人数)	遺伝子	DNA	遺伝情報	ゲノム	染色体	パーソナルゲノム	ゲノム研究	ファーマコゲノミクス	遺伝子検査	DNA鑑定	(%) この中に知っている言葉はない
全 体		3000	88.6	88.3	46.3	53.6	76.4	9.5	26.2	2.7	64.2	78.1	7.1
男 性	男性：計	1500	86.9	86.6	51.7	60.1	73.5	12.1	31.4	3.8	59.7	76.0	8.2
	20-29歳	300	76.7	77.7	45.0	47.3	63.0	10.7	24.3	5.3	49.7	66.3	15.3
	30-39歳	300	79.7	81.3	47.7	57.3	68.3	10.7	29.0	4.7	54.0	71.0	13.3
	40-49歳	300	89.7	87.3	54.7	65.7	75.0	13.0	32.7	5.0	62.3	78.3	6.3
	50-59歳	300	93.3	92.3	52.7	61.0	77.0	12.7	33.3	2.3	64.3	80.7	4.0
	60-69歳	300	95.0	94.3	58.7	69.0	84.0	13.7	37.7	1.7	68.0	83.7	2.0
女 性	女性：計	1500	90.3	90.0	40.9	47.2	79.3	6.9	21.0	1.7	68.7	80.3	6.0
	20-29歳	300	82.7	83.0	35.3	44.3	72.7	5.3	14.3	3.0	53.3	71.0	13.3
	30-39歳	300	88.3	86.3	41.7	48.7	75.0	6.7	20.0	2.0	65.7	78.3	6.7
	40-49歳	300	89.0	88.7	40.7	47.0	76.7	9.3	21.3	2.3	68.0	78.7	5.7
	50-59歳	300	95.0	95.0	43.7	46.3	82.7	7.0	22.0	1.0	74.3	85.0	3.0
	60-69歳	300	96.7	97.0	43.0	49.7	89.7	6.3	27.3	0.0	82.3	88.3	1.3

3. 調査結果 Q2.遺伝情報研究・診療への関心状況

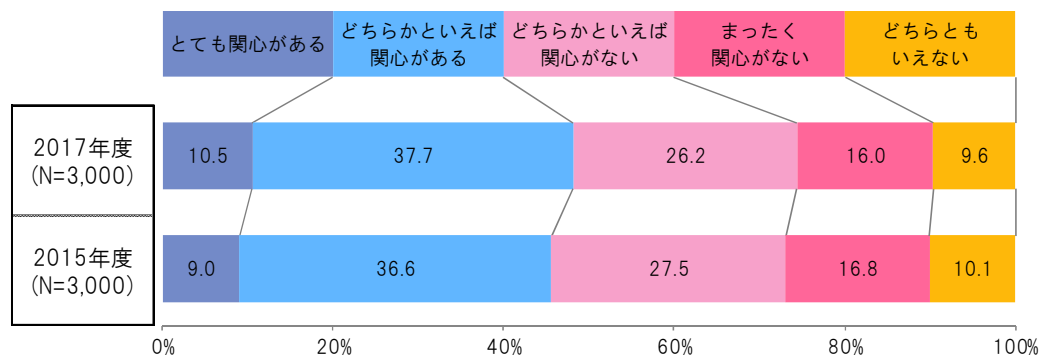
- ◆ Q2.このような遺伝情報（遺伝的な体質）に関する研究や診療に関心がありますか。当てはまるものを1つ選択してください。

関心度をみると、「どちらかといえば関心がある」（37.7%）が最も高く、次いで「どちらかといえば関心がない」（26.2%）であった。

『関心がある計』（「とても関心がある」、「どちらかといえば関心がある」）は48.2%、『関心がない計』（「どちらかといえば関心がない」、「まったく関心がない」）は42.2%で概ね拮抗しているが、関心がある人のほうがやや多い。

前回と比較して、大きな変化はみられない。

	(単位:人)		(%)	
	2015年度	2017年度	2015年度	2017年度
とても関心がある	271	316	9.0	10.5
どちらかといえば関心がある	1,098	1,131	36.6	37.7
どちらかといえば関心がない	825	785	27.5	26.2
まったく関心がない	504	480	16.8	16.0
どちらともいえない	302	288	10.1	9.6
N	3,000	3,000	100.0	100.0



3. 調査結果 Q2.遺伝情報研究・診療への関心状況

- ◆ Q2.このような遺伝情報（遺伝的な体質）に関する研究や診療に関心がありますか。当てはまるものを1つ選択してください。

女性20代は『関心がある計』（42.7%）が、他層と比べて低め。女性30代と女性50-60代は『関心がある計』が5割を超えており、高め。

男性40代では「とても関心がある」（16.3%）が、全体と比べて高い。

(%)

		全 体 (人数)	とても関心がある	どちらかといえ ば関心がある	どちらかといえ ば関心がない	まったく関心がない	どちらともいえない
全 体		3000	10.5	37.7	26.2	16.0	9.6
男 性	男性：計	1500	10.7	35.5	26.6	17.6	9.6
	20-29歳	300	12.3	33.3	19.7	22.7	12.0
	30-39歳	300	10.0	35.7	23.3	16.7	14.3
	40-49歳	300	16.3	31.7	24.7	18.0	9.3
	50-59歳	300	7.3	37.0	29.3	19.0	7.3
	60-69歳	300	7.3	40.0	36.0	11.7	5.0
女 性	女性：計	1500	10.4	39.9	25.7	14.4	9.6
	20-29歳	300	8.0	34.7	21.7	22.0	13.7
	30-39歳	300	11.3	41.3	22.7	15.7	9.0
	40-49歳	300	13.3	36.0	27.3	14.7	8.7
	50-59歳	300	9.0	43.3	28.3	11.0	8.3
	60-69歳	300	10.3	44.0	28.7	8.7	8.3

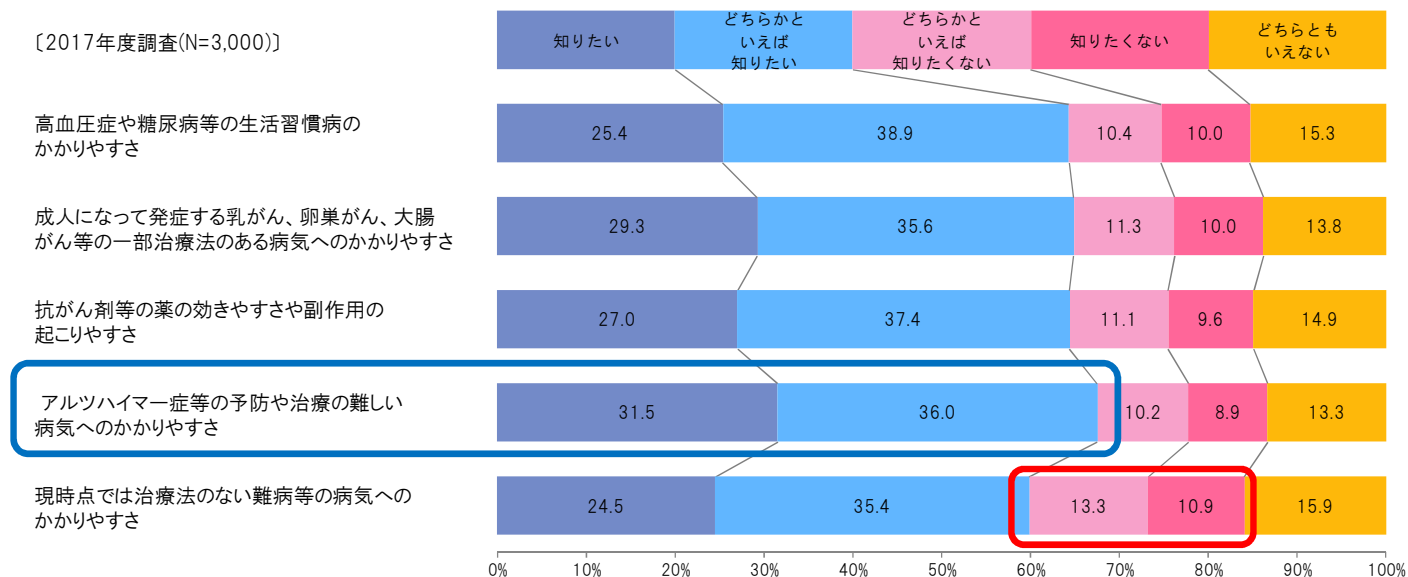
3. 調査結果 Q3.自身の遺伝情報への関心

◆ Q3.ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ1つ選択してください。

『知りたい計』（「知りたい」、「どちらかといえば知りたい」）の割合が最も高い項目は、「アルツハイマー症等の予防や治療の難しい病気へのかかりやすさ」の67.5%であった。

「高血圧症や糖尿病等の生活習慣病のかかりやすさ」「成人になって発症する乳がん、卵巣がん、大腸がん等の一部治療法のある病気へのかかりやすさ」「抗がん剤等の薬の効きやすさや副作用の起こりやすさ」は『知りたい計』が6割を超えている。

「現時点では治療法のない難病等の病気へのかかりやすさ」は『知りたい計』が59.9%で半数を超えているが、一方で『知りたくない計』（「どちらかといえば知りたくない」、「知りたくない」）の割合が最も高い（24.2%）。



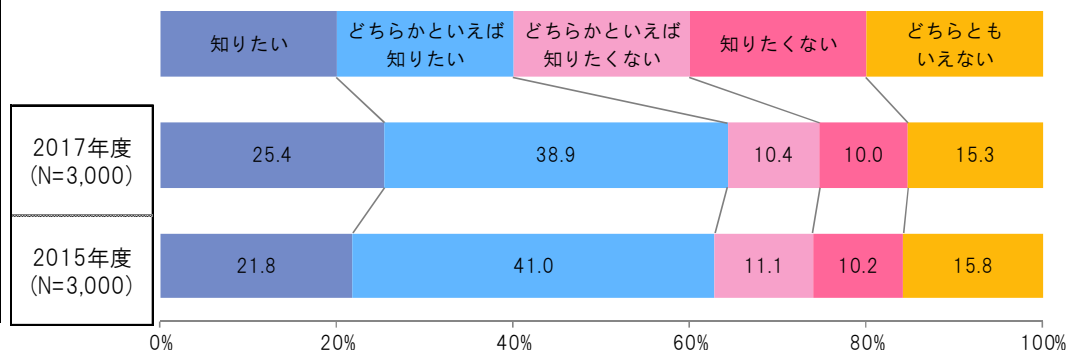
3. 調査結果 Q3.自身の遺伝情報への関心

◆ Q3.ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ1つ選択してください。

① 高血圧症や糖尿病等の生活習慣病のかかりやすさ

「どちらかといえば知りたい」(38.9%)が最も高く、「知りたい」(25.4%)が続く。
 『知りたい計』(「知りたい」、「どちらかといえば知りたい」)割合が64.3%で、『知りたくない計』(「どちらかといえば知りたくない」、「知りたくない」)の20.4%と比べるとかなり高い。
 前回と比較すると、「知りたい」(+3.6ポイント)が増加。

	(単位:人)		(%)	
	2015年度	2017年度	2015年度	2017年度
知りたい	655	762	21.8	25.4
どちらかといえば知りたい	1,231	1,166	41.0	38.9
どちらかといえば知りたくない	333	312	11.1	10.4
知りたくない	307	300	10.2	10.0
どちらともいえない	474	460	15.8	15.3
N	3,000	3,000	100.0	100.0



3. 調査結果 Q3.自身の遺伝情報への関心

◆ Q3.ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ1つ選択してください。

① 高血圧症や糖尿病等の生活習慣病のかかりやすさ

女性50-60代で『知りたい計』が7割を超え、全体と比べて高め。男性20-30代は「どちらともいえない」が2割を超えている。

いずれの年代でも、女性のほうが男性よりも『知りたい計』が高い。

(%)

		全 体 (人数)	知りたい	どちらかといえ ば知りたい	どちらかといえ ば知りたくない	知りたくない	どちらともいえ ない
全 体		3000	25.4	38.9	10.4	10.0	15.3
男 性	男性：計	1500	24.3	36.0	12.0	11.3	16.5
	20-29歳	300	25.0	32.0	10.7	11.7	20.7
	30-39歳	300	22.0	31.0	12.7	12.3	22.0
	40-49歳	300	25.3	36.0	13.0	11.3	14.3
	50-59歳	300	25.0	38.7	12.3	10.7	13.3
	60-69歳	300	24.0	42.3	11.3	10.3	12.0
女 性	女性：計	1500	26.5	41.7	8.8	8.7	14.2
	20-29歳	300	22.3	41.3	9.0	10.0	17.3
	30-39歳	300	29.0	37.0	7.3	11.3	15.3
	40-49歳	300	28.0	41.0	9.3	6.0	15.7
	50-59歳	300	28.0	44.7	8.0	7.3	12.0
	60-69歳	300	25.3	44.7	10.3	9.0	10.7

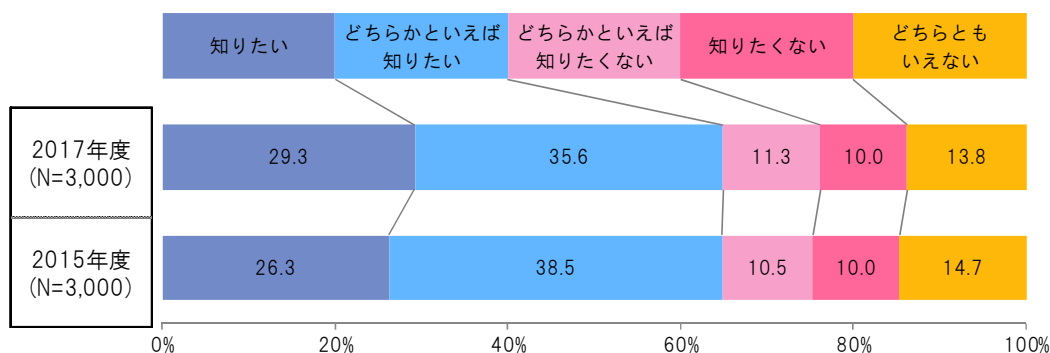
3. 調査結果 Q3.自身の遺伝情報への関心

◆ Q3.ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ1つ選択してください。

②成人になって発症する乳がん、卵巣がん、大腸がん等の一部治療法のある病気へのかかりやすさ

「どちらかといえば知りたい」(35.6%)が最も高く、「知りたい」(29.3%)が続く。
 『知りたい計』の割合が64.9%で、『知りたくない計』の21.3%と比べるとかなり高い。
 前回と比較すると、「知りたい」(+3.0ポイント)が増加し、「どちらかといえば知りたい」(-2.9ポイント)が減少した。

	(単位:人)		(%)	
	2015年度	2017年度	2015年度	2017年度
知りたい	790	879	26.3	29.3
どちらかといえば知りたい	1,155	1,068	38.5	35.6
どちらかといえば知りたくない	316	339	10.5	11.3
知りたくない	299	301	10.0	10.0
どちらともいえない	440	413	14.7	13.8
N	3,000	3,000	100.0	100.0



3. 調査結果 Q3.自身の遺伝情報への関心

◆ Q3.ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ1つ選択してください。

②成人になって発症する乳がん、卵巣がん、大腸がん等の一部治療法のある病気へのかかりやすさ

女性30-60代で『知りたい計』が7割を超えて、高い。男性20-30代は「どちらともいえない」が2割を超えている。

いずれの年代でも、女性のほうが男性よりも『知りたい計』が高い。

(%)

		全 体 (人数)	知りたい	どちらかといえ ば知りたい	どちらかといえ ば知りたくない	知りたくない	どちらともいえ ない
全 体		3000	29.3	35.6	11.3	10.0	13.8
男 性	男性：計	1500	23.7	33.3	14.3	12.3	16.4
	20-29歳	300	23.3	28.3	13.7	13.3	21.3
	30-39歳	300	22.3	34.0	12.7	11.0	20.0
	40-49歳	300	26.0	35.3	13.3	11.0	14.3
	50-59歳	300	22.7	35.7	16.0	10.3	15.3
	60-69歳	300	24.3	33.3	15.7	15.7	11.0
女 性	女性：計	1500	34.9	37.9	8.3	7.8	11.1
	20-29歳	300	30.7	38.0	7.0	8.7	15.7
	30-39歳	300	36.3	36.7	6.0	9.0	12.0
	40-49歳	300	37.7	36.7	8.7	5.7	11.3
	50-59歳	300	37.7	38.3	8.7	6.0	9.3
	60-69歳	300	32.0	39.7	11.3	9.7	7.3

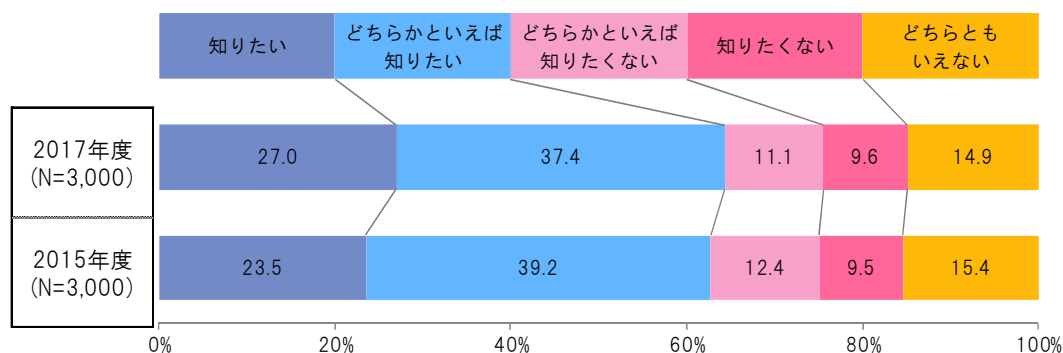
3. 調査結果 Q3.自身の遺伝情報への関心

◆ Q3.ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ1つ選択してください。

③抗がん剤等の薬の効きやすさや副作用の起こりやすさ

「どちらかといえば知りたい」(37.4%)が最も高く、「知りたい」(27.0%)が続く。
『知りたい計』が64.4%で、『知りたくない』の20.7%と比べるとかなり高い。
前回と比較すると、「知りたい」(+3.5ポイント)が増加。

	(単位:人)		割合 (%)	
	2015年度	2017年度	2015年度	2017年度
知りたい	704	810	23.5	27.0
どちらかといえば知りたい	1,177	1,122	39.2	37.4
どちらかといえば知りたくない	372	333	12.4	11.1
知りたくない	285	287	9.5	9.6
どちらともいえない	462	448	15.4	14.9
N	3,000	3,000	100.0	100.0



3. 調査結果 Q3.自身の遺伝情報への関心

◆ Q3.ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ1つ選択してください。

③抗がん剤等の薬の効きやすさや副作用の起こりやすさ

女性40-60代で『知りたい計』が7割を超えて、全体と比べて高い。男性20-30代は「どちらともいえない」が2割を超えている。

いずれの年代でも、女性のほうが男性よりも『知りたい計』が高い。

(%)

		全 体 (人数)	知りたい	どちらかといえ ば知りたい	どちらかといえ ば知りたくない	知りたくない	どちらともいえ ない
全 体		3000	27.0	37.4	11.1	9.6	14.9
男 性	男性：計	1500	23.0	35.0	14.2	10.7	17.1
	20-29歳	300	25.3	29.3	12.7	11.3	21.3
	30-39歳	300	20.7	31.3	15.7	10.7	21.7
	40-49歳	300	24.3	35.3	15.0	10.3	15.0
	50-59歳	300	20.7	38.0	15.0	10.0	16.3
	60-69歳	300	24.0	41.0	12.7	11.0	11.3
女 性	女性：計	1500	31.0	39.8	8.0	8.5	12.7
	20-29歳	300	24.7	38.0	8.3	10.0	19.0
	30-39歳	300	30.3	38.0	5.7	11.0	15.0
	40-49歳	300	30.3	41.0	8.0	6.7	14.0
	50-59歳	300	35.0	41.7	8.7	6.0	8.7
	60-69歳	300	34.7	40.3	9.3	8.7	7.0

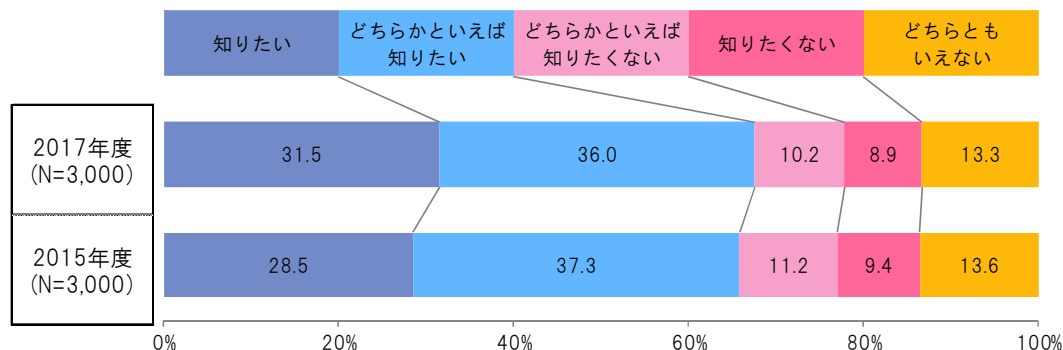
3. 調査結果 Q3.自身の遺伝情報への関心

◆ Q3.ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ1つ選択してください。

④アルツハイマー症等の予防や治療の難しい病気へのかかりやすさ

「どちらかといえば知りたい」(36.0%)が最も高く、「知りたい」(31.5%)が続く。『知りたい計』が67.5%で、『知りたくない計』の19.1%と比べるとかなり高い。前回と比較すると、「知りたい」(+3.0ポイント)が増加。

	(単位:人)		割合 (%)	
	2015年度	2017年度	2015年度	2017年度
知りたい	854	946	28.5	31.5
どちらかといえば知りたい	1,118	1,081	37.3	36.0
どちらかといえば知りたくない	336	306	11.2	10.2
知りたくない	283	267	9.4	8.9
どちらともいえない	409	400	13.6	13.3
N	3,000	3,000	100.0	100.0



3. 調査結果 Q3.自身の遺伝情報への関心

◆ Q3.ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ1つ選択してください。

④アルツハイマー症等の予防や治療の難しい病気へのかかりやすさ

男性60代、女性40-60代で『知りたい計』が7割を超えて、高い。男性20-30代は「どちらともいえない」が2割を超えている。

いずれの年代でも、女性のほうが男性よりも『知りたい計』が高い。

(%)

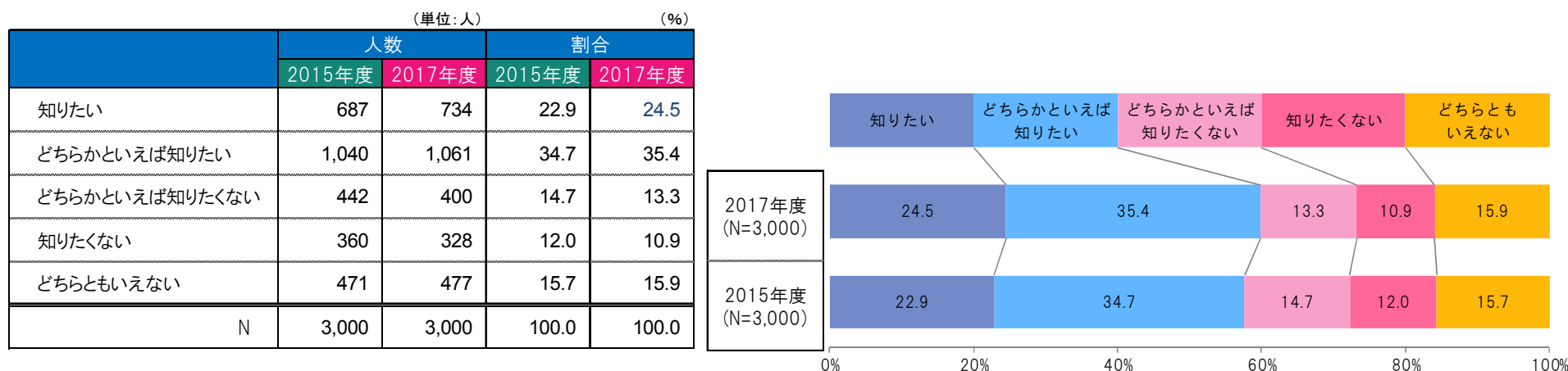
		全 体 (人数)	知りたい	どちらかといえ ば知りたい	どちらかといえ ば知りたくない	知りたくない	どちらともいえ ない
全 体		3000	31.5	36.0	10.2	8.9	13.3
男 性	男性：計	1500	26.4	34.7	12.9	10.1	15.9
	20-29歳	300	24.7	31.3	12.0	11.3	20.7
	30-39歳	300	25.7	30.3	13.0	10.3	20.7
	40-49歳	300	27.7	33.3	14.0	10.7	14.3
	50-59歳	300	24.0	37.7	14.3	8.7	15.3
	60-69歳	300	30.0	41.0	11.3	9.3	8.3
女 性	女性：計	1500	36.7	37.3	7.5	7.7	10.8
	20-29歳	300	28.7	35.3	7.7	10.7	17.7
	30-39歳	300	33.0	36.7	7.3	9.3	13.7
	40-49歳	300	38.7	37.3	7.3	5.3	11.3
	50-59歳	300	41.3	39.0	6.7	6.0	7.0
	60-69歳	300	41.7	38.3	8.3	7.3	4.3

3. 調査結果 Q3.自身の遺伝情報への関心

◆ Q3.ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ1つ選択してください。

⑤現時点では治療法のない難病等の病気へのかかりやすさ

「どちらかといえば知りたい」(35.4%)が最も高く、「知りたい」(24.5%)が続く。
『知りたい』割合が59.9%で、『知りたくない』の24.2%と比べるとかなり高い。
前回と比較して、大きな変化はみられない。



3. 調査結果 Q3.自身の遺伝情報への関心

◆ Q3.ご自身の遺伝情報を知りたいと思いますか。それぞれ1つ選択してください。

⑤現時点では治療法のない難病等の病気へのかかりやすさ

いずれの年代でも、女性のほうが男性よりも『知りたい計』が高い。

		全 体 (人数)	知りたい	どちらかといえ ば知りたい	どちらかといえ ば知りたくない	知りたくない	どちらともいえ ない
全 体		3000	24.5	35.4	13.3	10.9	15.9
男 性	男性：計	1500	22.3	33.3	15.2	12.0	17.1
	20-29歳	300	25.3	30.3	13.3	12.0	19.0
	30-39歳	300	21.0	34.3	12.3	11.7	20.7
	40-49歳	300	23.0	32.3	17.7	11.3	15.7
	50-59歳	300	20.7	35.7	16.0	10.7	17.0
	60-69歳	300	21.7	34.0	16.7	14.3	13.3
女 性	女性：計	1500	26.6	37.4	11.5	9.9	14.7
	20-29歳	300	25.3	34.3	11.3	9.7	19.3
	30-39歳	300	27.3	39.0	7.3	11.0	15.3
	40-49歳	300	28.3	39.3	11.7	6.0	14.7
	50-59歳	300	26.7	41.3	10.7	9.3	12.0
	60-69歳	300	25.3	33.0	16.3	13.3	12.0

(%)

3. 調査結果 Q4.遺伝情報の取扱いで重要なもの

- ◆ Q4.研究や診療を通じてご自身の遺伝情報が取り扱われる場合、どのようなことが重要ですか。特に重要なものを2つ選んでください。

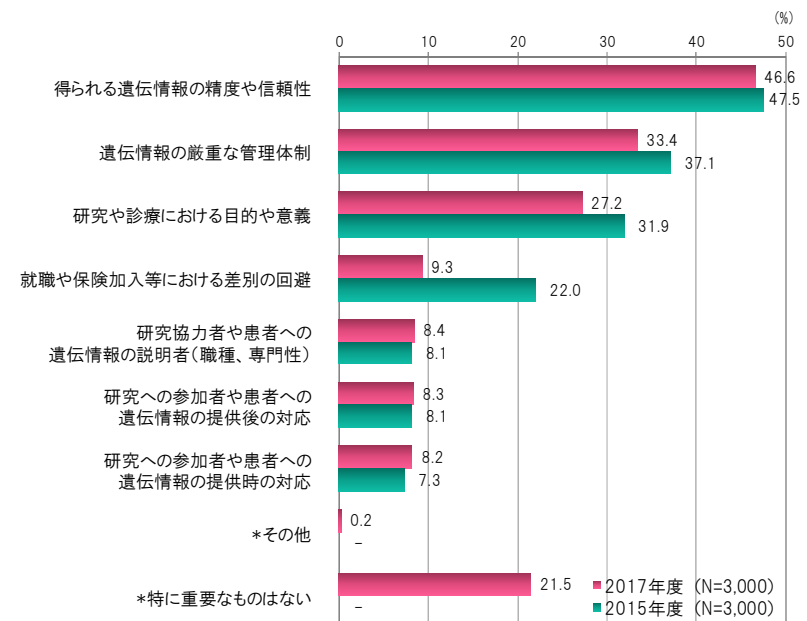
「得られる遺伝情報の精度や信頼性」(46.6%)が最も高く、「遺伝情報の厳重な管理体制」(33.4%)、「研究や診療における目的や意義」(27.2%)の順で続く。

なお、「特に重要なものはない」は21.5%を占めている。(前回調査で当該選択肢は設定されていない)

前回と比較すると、「就業や保険加入等における差別の回避」(-12.7ポイント)が10ポイント以上減少したほか、「研究や診療における目的や意義」(-4.7ポイント)、「遺伝情報の厳重な管理体制」(-3.7ポイント)が減少。

	(単位:人)		割合 (%)	
	人数		割合	
	2015年度	2017年度	2015年度	2017年度
研究や診療における目的や意義	956	817	31.9	27.2
得られる遺伝情報の精度や信頼性	1,425	1,397	47.5	46.6
研究協力者や患者への遺伝情報の説明者(職種、専門性)	244	251	8.1	8.4
研究への参加者や患者への遺伝情報の提供時の対応	218	247	7.3	8.2
研究への参加者や患者への遺伝情報の提供後の対応	242	248	8.1	8.3
遺伝情報の厳重な管理体制	1,112	1,002	37.1	33.4
就業や保険加入等における差別の回避	661	280	22.0	9.3
*その他	-	6	-	0.2
*特に重要なものはない	-	644	-	21.5
N	3,000	3,000	100.0	100.0

*2015年度調査では、当該選択肢は設定されていない。



3. 調査結果 Q4.遺伝情報の取扱いで重要なもの

- ◆ Q4.研究や診療を通じてご自身の遺伝情報が取り扱われる場合、どのようなことが重要ですか。特に重要なものを2つ選んでください。

「得られる遺伝情報の精度や信頼性」は女性50-60代、「遺伝情報の厳重な管理体制」は男性60代および女性50-60代で全体と比較して高く、重要と考えられている。一方で、男性20-30代および女性20代は「特に重要なものはない」と考える人が3割前後が多い。

(%)

	全 体 (人数)	研究や診療に おける目的や 意義	得られる遺伝 情報の精度 や信頼性	研究協力者 や患者への遺 伝情報の説 明者(職 種、専門)	研究への参 加者や患者 への遺伝情 報の提供時 の対応	研究への参 加者や患者 への遺伝情 報の提供後 の対応	遺伝情報の 厳重な管理 体制	就職や保険 加入等におけ る差別の回避	その他	特に重要なも のではない	
全 体	3000	27.2	46.6	8.4	8.2	8.3	33.4	9.3	0.2	21.5	
男 性	男性：計	1500	28.7	41.0	8.2	8.1	7.6	30.7	9.0	0.3	25.0
	20-29歳	300	30.0	36.7	8.3	8.3	6.3	21.7	8.7	-	33.0
	30-39歳	300	30.0	45.0	9.0	7.0	8.0	19.3	8.3	-	29.0
	40-49歳	300	29.0	40.0	8.3	10.3	8.3	29.7	11.0	-	23.0
	50-59歳	300	27.0	38.7	8.0	8.3	6.7	36.3	6.3	0.7	23.7
	60-69歳	300	27.3	44.7	7.3	6.3	8.7	46.7	10.7	0.7	16.3
女 性	女性：計	1500	25.8	52.1	8.5	8.4	8.9	36.1	9.7	0.1	17.9
	20-29歳	300	25.3	40.7	7.3	6.7	7.0	27.3	10.7	-	31.0
	30-39歳	300	26.0	48.0	5.3	10.0	8.7	31.3	10.7	-	23.0
	40-49歳	300	30.7	51.0	11.7	8.7	10.0	34.3	8.7	0.3	14.3
	50-59歳	300	23.7	56.7	7.7	7.7	9.3	42.3	11.3	0.3	11.7
	60-69歳	300	23.3	64.3	10.7	9.0	9.7	45.0	7.0	-	9.7

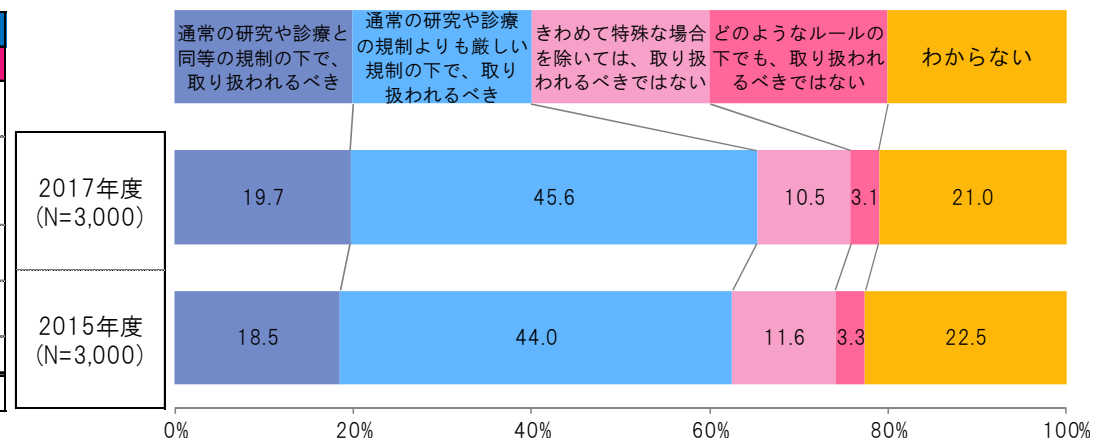
3. 調査結果 Q5.遺伝情報取扱いのルールへの意識

- ◆ Q5.遺伝情報に関する研究や診療を進めていくことで、個人に適した治療や診断を行う「オーダーメイド医療」の実現が期待されます。今後、遺伝情報が研究や診療で用いられる場合、遺伝情報はどのようなルールの下で、取り扱われることが望ましいですか。

「通常の研究や診療の規制よりも厳しい規制の下で、取り扱われるべき」(45.6%)が最も高く、「わからない」(21.0%)、「通常の研究や診療と同等の規制の下で取り扱われるべき」(19.7%)が続く。

前回と比較して、大きな変化はみられない。

	(単位:人)		(%)	
	人数		割合	
	2015年度	2017年度	2015年度	2017年度
通常の研究や診療と同等の規制の下で、取り扱われるべき	555	591	18.5	19.7
通常の研究や診療の規制よりも厳しい規制の下で、取り扱われるべき	1,321	1,368	44.0	45.6
きわめて特殊な場合を除いては、取り扱われるべきではない	349	316	11.6	10.5
どのようなルールの下でも、取り扱われる	100	94	3.3	3.1
わからない	675	631	22.5	21.0
N	3,000	3,000	100.0	100.0



3. 調査結果 Q5.遺伝情報取扱いのルールへの意識

- ◆ Q5.遺伝情報に関する研究や診療を進めていくことで、個人に適した治療や診断を行う「オーダーメイド医療」の実現が期待されます。今後、遺伝情報が研究や診療で用いられる場合、遺伝情報はどのようなルールの下で、取り扱われることが望ましいですか。

「通常の研究や診療の規制よりも厳しい規制の下で、取り扱われるべき」は男女60代、女性50代で5割以上と高い。「わからない」は男女20代で約3割と高い。

		全 体 (人数)	通常の研究 や診療と同等 の規制の下 で、取り扱わ れるべき	通常の研究 や診療の規 制よりも厳し い規制の下 で、取り扱わ れるべき	きわめて特殊 な場合を除い ては、取り扱 われるべきで はない	どのようなルー ルの下でも、 取り扱われる べきではない	わからない
全 体		3000	19.7	45.6	10.5	3.1	21.0
男 性	男性：計	1500	20.5	42.7	10.1	3.3	23.3
	20-29歳	300	24.0	33.0	8.7	4.0	30.3
	30-39歳	300	20.3	38.7	9.3	5.0	26.7
	40-49歳	300	20.7	41.7	10.7	4.0	23.0
	50-59歳	300	19.3	47.3	13.3	0.3	19.7
	60-69歳	300	18.3	53.0	8.7	3.3	16.7
女 性	女性：計	1500	18.9	48.5	10.9	2.9	18.8
	20-29歳	300	18.7	40.7	6.7	5.0	29.0
	30-39歳	300	21.0	43.7	9.7	3.0	22.7
	40-49歳	300	21.7	47.0	11.7	2.3	17.3
	50-59歳	300	18.7	52.0	12.7	1.7	15.0
	60-69歳	300	14.3	59.0	14.0	2.7	10.0

3. 調査結果 Q6.同意取得にあたり明確な説明が必要な場合

- ◆ Q6.遺伝情報に関する研究や診療を行う際には、研究への参加者や患者から同意を取得する必要がありますが、試料や情報（氏名や住所等の個人情報を除く）の取扱いにおいて、特にどのような場合を明確に説明しておく必要があると思いますか。

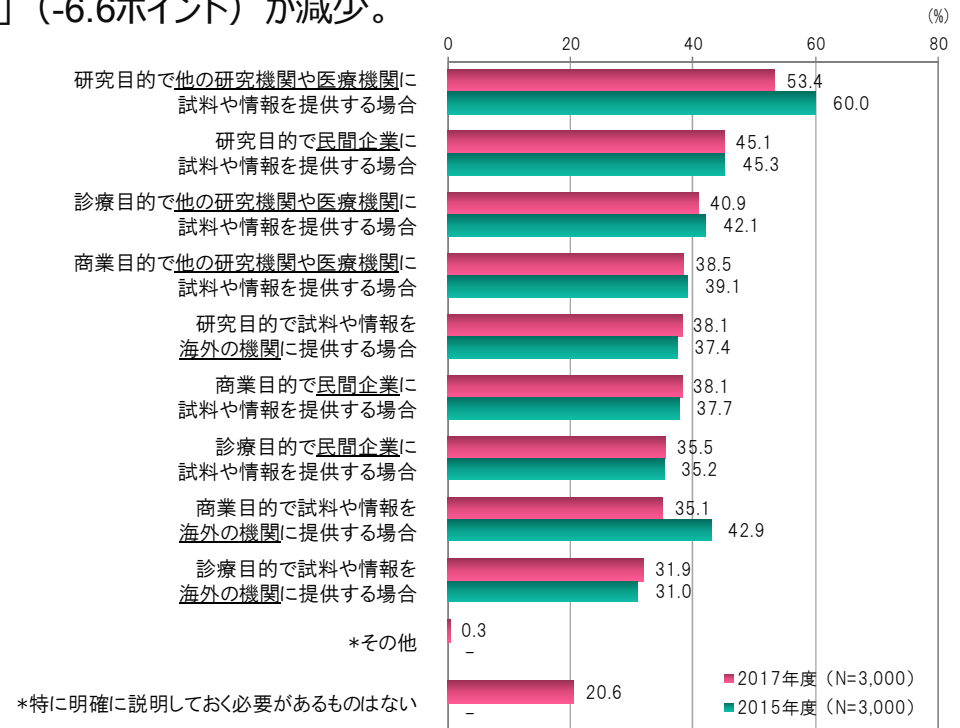
「研究目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合」（53.4%）が最も高く、「研究目的で民間企業に試料や情報を提供する場合」（45.1%）、「診療目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合」（40.9%）が続く。目的別では「研究目的」、「診療目的」、「商業目的」の順に高く、提供先別では「他の研究機関や医療機関」、「民間企業」、「海外の機関」の順で高い。

「特に明確に説明しておく必要があるものはない」は20.6%。

前回と比較すると、「商業目的で試料や情報を海外の機関に提供する場合」（-7.8ポイント）、「研究目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合」（-6.6ポイント）が減少。

		(単位:人)		(%)	
		人数		割合	
		2015年度	2017年度	2015年度	2017年度
研究目的	研究目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合	1,799	1,602	60.0	53.4
	研究目的で民間企業に試料や情報を提供する場合	1,359	1,354	45.3	45.1
	研究目的で試料や情報を海外の機関に提供する場合	1,121	1,144	37.4	38.1
診療目的	診療目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合	1,263	1,228	42.1	40.9
	診療目的で民間企業に試料や情報を提供する場合	1,056	1,066	35.2	35.5
	診療目的で試料や情報を海外の機関に提供する場合	931	956	31.0	31.9
商業目的	商業目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合	1,174	1,156	39.1	38.5
	商業目的で民間企業に試料や情報を提供する場合	1,131	1,144	37.7	38.1
	商業目的で試料や情報を海外の機関に提供する場合	1,287	1,052	42.9	35.1
*その他		-	8	-	0.3
*特に明確に説明しておく必要があるものはない		-	619	-	20.6
N		3,000	3,000	100.0	100.0

*2015年度調査では、当該選択肢は設定されていない。



3. 調査結果 Q6.同意取得にあたり明確な説明が必要な場合

- ◆ Q6.遺伝情報に関する研究や診療を行う際には、研究への参加者や患者から同意を取得する必要がありますが、試料や情報（氏名や住所等の個人情報を除く）の取扱いにおいて、特にどのような場合を明確に説明しておく必要があると思いますか。

全般に、男性20代で低い傾向があり、「特に明確に説明しておく必要があるものはない」と考える人が3割を超えている。「研究目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合」、「診療目的で他の研究機関や医療機関に試料や情報を提供する場合」については、全体と比較して女性40-60代で明確に説明しておく必要があると考える人が多い傾向がある。

	全 体 (人数)	研究目的			診療目的			商業目的			その他	(%)	
		研究目的で 他の研究機 関や医療機 関に試料や情 報を提供する 場合	研究目的で 民間企業に 試料や情報を 提供する場合	研究目的で 試料や情報を 海外の機関に 提供する場合	診療目的で 他の研究機 関や医療機 関に試料や情 報を提供する 場合	診療目的で 民間企業に 試料や情報を 提供する場合	診療目的で 試料や情報を 海外の機関に 提供する場合	商業目的で 他の研究機 関や医療機 関に試料や情 報を提供する 場合	商業目的で 民間企業に 試料や情報を 提供する場合	商業目的で 試料や情報を 海外の機関に 提供する場合			
全 体	3000	53.4	45.1	38.1	40.9	35.5	31.9	38.5	38.1	35.1	0.3	20.6	
男 性	男性：計	1500	49.5	43.1	35.5	35.5	32.8	28.7	35.9	35.7	32.9	0.3	24.1
	20-29歳	300	43.3	42.7	33.3	29.7	25.3	25.3	29.0	31.0	29.3	-	31.3
	30-39歳	300	48.0	43.3	34.3	31.0	29.3	27.3	32.7	33.3	29.7	0.3	28.7
	40-49歳	300	48.3	44.3	37.7	39.0	37.7	32.7	38.7	39.0	35.0	0.3	22.3
	50-59歳	300	51.0	42.3	37.7	36.7	33.0	29.0	38.7	37.0	35.3	0.7	20.3
	60-69歳	300	56.7	43.0	34.7	41.3	38.7	29.3	40.7	38.3	35.3	0.3	18.0
女 性	女性：計	1500	57.3	47.1	40.7	46.3	38.3	35.0	41.1	40.5	37.2	0.2	17.1
	20-29歳	300	48.0	46.0	45.3	36.3	37.3	36.0	42.7	41.7	41.0	0.3	28.3
	30-39歳	300	54.7	45.7	40.7	44.3	39.3	35.7	41.0	42.7	35.7	-	19.7
	40-49歳	300	62.0	49.3	40.7	49.0	36.7	34.0	39.7	38.7	35.7	-	15.3
	50-59歳	300	59.7	48.0	40.3	47.3	40.0	36.7	40.7	40.3	37.3	0.3	12.3
	60-69歳	300	62.3	46.7	36.7	54.7	38.0	32.7	41.7	39.3	36.3	0.3	10.0